

# 令和を生きる～新時代への展望～

<p>第1回 7/6 (土)</p>	<p><b>「自然災害と防災対策」</b> 自然災害は、自然現象によって我々の社会に人的・物的な直接被害や社会的な間接被害をもたらす現象です。自然現象を理解するだけでは、被害をなくすことはできません。防災対策とは、社会における災害の発生をなくすことを目的とした様々な活動を意味しており、新技術開発や社会制度の変更を社会実装することにより安全な地域社会に変えていくことが可能になります。さらに、防災対策は地域の価値と対立する存在となることがあり、最適解を見つけることは難しい課題となります。事例なども合わせて紹介したいと思います。</p> <p>■講師:原田 賢治 准教授 (防災総合センター／研究分野:自然災害科学、防災学)</p>
<p>第2回 8/17 (土)</p>	<p><b>「日常と非日常からみるところと脳の科学」</b> 私たちが直接観ることができるのは自分自身の「こころ」のみであり、自分自身の経験/体験こそが「こころ」を探求する手がかりとなります。心理学や神経科学は、日常でのちょっと不思議な経験からヒントを得て発展してきました。また逆に、実験室や特殊条件下で初めて顕になった非日常的な体験も心理学や神経科学のブレークスルーとなってきました。本講では、“身体”と“時間”をキーワードに、日常と非日常からみる「こころ」と「脳」の科学を紹介したいと思います。</p> <p>■講師:宮崎 真 教授 (情報学部／研究分野:神経科学、身体教育学)</p>
<p>第3回 9/7 (土)</p>	<p><b>「環境は持続可能か?～微生物による環境浄化の開発～」</b> 人類による文明社会の進歩は、我々に豊かな生活をもたらしてきました。しかしそれに伴って、人為起源の化合物のいくつかは、長く環境に留まることで、地球規模の生態系に影響を与えつつあります。演者らは、こうした化合物を「餌」として生きていくことのできる、人間の目に見えない微生物について研究を行ってきました。講演では、これからの持続可能な社会づくりの実現に向けて、こうした微生物の多様な機能を利用した環境浄化の手法開発について、最新の話題とともにお話します。</p> <p>■講師:新谷 政己 准教授 (工学部／研究分野:環境微生物学)</p>
<p>第4回 10/5 (土)</p>	<p><b>「スポーツによる地域の活性化」</b> 今日、スポーツがもたらす効果的特性の一つに地域活性化が挙げられ、それに関する取り組みも盛況です。しかしながら、改めてスポーツと地域の関係性を考えると、そこで示されるスポーツの意味や、地域の内実については必ずしも明らかにされておらず、ぼんやりとしたイメージでしか語られていないように思われます。このような問題意識から、活性化をめぐるスポーツと地域の“見方・考え方”を基に両者の関係性について言及します。</p> <p>■講師:村田 真一 准教授 (地域創造学環／研究分野:スポーツ経営学)</p>
<p>第5回 11/2 (土)</p>	<p><b>「人工衛星データが語る富士山・伊豆半島周辺の動き」</b> 静岡県は、プレートの境界に位置するため、地震・火山活動と縁深い土地になっています。人工衛星の一種である GNSS は、cm オーダーの地表変位を捉えることができ、地表のどこがどのようにどれくらい動いているかについて、我々に教えてくれます。国土地理院の観測網による地表変位データを基に、静岡県、特に富士山や伊豆半島周辺の地下で何が起きているのか、お話します。</p> <p>■講師:三井 雄太 講師 (理学部／研究分野:地球物理学)</p>